

ヒューマンライブラリーとは、障害を持つ人やLGBT当事者、難病を抱える人やその家族らを、貴重な物語が詰まった「本」と見立て、参加者（＝読者）との対話を通して相互理解を深める取り組みです。

対話時間は30分。今回は、ひとりの「本」役に対して、3人までの「読者」が対話することができます。そのうち2人までは、Webページから事前予約が可能です。1人は当日受付を予定しています。

【以下の項目に同意していただいた方のみが参加することが出来ます】

- 1、意図的に「本」役の方を傷つけるような言動はしないでください。
- 2、スタッフの許可無く撮影・録音することは出来ません。
- 3、「読者」役として知り得た「本」役の方の個人情報（公開していない場合の本名、お住まい、年齢など）を、許可無く他者に公表しないでください。ただし、今回あなたが得た「発見」や「感動」は、是非、誰かに伝えて下さい。
- 4、開催中に「本」役の方が身体的、精神的に苦痛を感じ継続困難になった場合、またはその他緊急事態が発生した場合は、中止させていただくことがあります。速やかにスタッフの指示に従ってください。

【集合時間について】

webで事前予約をした方は、当日、開始5分前に受付を済ませてください。遅刻された場合はキャンセル扱いとさせていただきます、当日席として解放しますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

【対話する場所について】

今回のヒューマンライブラリーは、オープンスペースで行ないます。個室ではありませんので、ご了承ください。

【個人情報の利用目的】

取得した個人情報は、ご参加手続きに関する業務、担当者からのご連絡、資料の送付のために利用し、その他の目的には利用しません。イベント終了後、責任を持って破棄させていただきます。

【その他】

会場内では、取材メディアによる写真や動画撮影が行なわれる可能性があり、参加されるみなさまが映り込む場合がございます。

それらは、会場内での放映、イベント終了後の広告物、取材メディアによるテレビ／新聞／雑誌／WEBなどに露出／掲載される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

なお、撮影をされたくない方は、事前に受付にてお申し出ください。

お申込み完了と同時に、上記の内容に同意したものとみなします。

【1】13:00-13:30の回/【2】14:00-14:30の回/【3】15:00-15:30の回/【4】16:00-16:30の回/【5】17:00-17:30の回/【6】18:00-18:30の回/【7】19:00-19:30の回

名前	タイトル	あらすじ	1	2	3	4	5	6	7
小林 幸一郎	NPO法人モンキーマジック代表/パラクライミング視覚障害者B1(全盲)クラス 世界チャンピオン	見えない壁だって、越えられる。	人は「障害があるから」「年だから」「どうせ自分にはできないだろう」と自分で知らず知らず「見えない壁」を作ってしまうがちです。障害者クライミングは、そんな自分で作る「見えない壁」に気づき、まずは「越えられるかもしれない」と信じ、方法を考え、仲間を見つけ、挑戦する力を得られると感じています。私の団体で継続して行なっている「交流型クライミングイベント」では、障害者も健常者も関係ない、全員が「ただのクライマー」です。多様性を認め合えるユニバーサルな社会が、ここに 있습니다。私の経験をお話しします。						
西澤 恵	認知症介護者のおしゃべり会 主宰	認知症介護 家族に何ができる？	「あれもこれも認知症の症状だったのだ。」と気づいた時には、介護の為に自分の時間が割かれています。日々の生活や仕事に支障が出ると共に、当事者は適切な認知症介護が受けられない状態が続いていきます。そうなった時、認知症について知識のない家族は、どんな介護ができるのか？何をすればいいのか？又、家族の認知症を受け入れられるのか？自らの介護経験と多くの介護家族の声を、これから認知症介護をするかもしれないあなたにお伝えしたい。						
フレイク	NPO法人 眼瞼下垂の会	僕は生まれつき瞼が開かない病気	母と同じ瞼が開かない遺伝子疾患で生まれ、オペしない生き方を青春時代に選びました。2008年から患者会NPOを立ち上げ今では独りではない瞼の人生を歩む、37才ひつじ年うまれ。						
榎川 里穂	工房ぱれっと通所員	わたしの仕事～わたしのらぶらび、見てください！～	私は「場面緘黙」という障がいがあります。高校卒業後一度企業に就職したけれど、人と話すのが苦手で長く続きませんでした。工房ぱれっとに入ってから、手先の器用さを活かして「らぶらび」というぬいぐるみを作っています。マレーシアにも招待され、作るところを披露してきました。帰国してからは「明るくなったね」「よく笑うようになったね」と言われます。最近子どもたちにらぶらびの作り方を教えることもあります。						
せいやくん	福祉作業所 ふれんど	ねえねえ、聞いてください	僕は電車やバスや地図が大好きです。知らない人の前で話すのは初めてです。お話聞いてください。						
まっすー	NPO法人 両育わーるど	手のカタチが違ってもいいじゃない！	私の手は生まつきみんなと違うカタチをしている。左腕はなく、右手はちょうど力二のハサミのような手。できることもできないことも人並みにあって、悩むときもあるけれど、美味しいお酒を飲める時が一番幸せ。現在は大学院に通う傍ら、NPOのインターンとして、「障害を知ってもらおう」ための活動に関わっています。						
あらとくん	福祉作業所 ふれんど	ボクの好きなこと	お仕事のこと、青年学級のこと、お友達のこと、などなど たくさん話したいです。よろしくお願いします。						
忍足亜希子	女優	音のない世界に生きる『ろう者』の私	私は生まれつき、耳が聴こえない『ろう者』です。当時のろう学校では、手話禁止。口話教育中心。手話ではないのはなぜ？ろう者の「音のない世界」とは？ろう者から見た「音のある世界」とは？ろう者にとっての「手話」とは？音のない世界に生きる『ろう者』の私のこれまでの人生をお話ししたいと思います。						
小澤綾子	シンガー・講演家	筋肉がなくなる進行性難病筋ジストロフィーを抱え、今を生きるということを語ります	人生には今しかない。今をどれだけ本気で生きるかで人の幸せは決まる。20歳の頃、筋肉がどんどんなくなる進行性難病筋ジストロフィーと診断され、10年後は車椅子、その先は寝たきりと医者に宣言され、人生のどん底に落ちた。何のために生きているかわからなくなった。自分なんていないほうがいいと思ったこともあった。紆余曲折の期間を経て生きてよかった、と思えるようになった今。乗り越えた過去と生きる喜びを語ります。						

神田 信	中途視覚障害の就労を考 える 認定NPO タートル ／JRPS神奈川	徐々に見えなくなる目、 仕 事、障害者スポーツ	私は網膜色素変性症という失明の原因疾患三番目の進行性の難病です。病気がわかって約30年。徐々に進んで現在矯正視力0.2。昨年まで目の前の人の顔がわからない事はなかったが、分からなくなってきました。どんどん不自由は増えていき、何も見えなくなったらやっていけるかな？とは思いますが、不思議と絶望感はありません。むしろ、病気がわかった最初の10年、20年の方が、症状はずっと軽かったのに、辛くて、苦しかった。それは…									● ●
小関 春海		LGBT当事者として日本で 生きること	ゲイ、レズビアン、バイセクシュアル、トランスジェンダーという言葉を知って、どんなイメージですか？自分の家族が当事者だったらどうでしょう？最近では市民権を得つつある(?) LGBTについてあらためてお話しします！									● ●
本田 緑葉	ホルモン性疾患	男女の二つの生き方を経験 したことで知った性別に拘 らない谷間な生き方	性分化疾患って知っていますか？おおよそ60以上ある中で僕は男性仮性半陰陽という特性で生まれてきました。一時期、TVドラマや漫画で知られた別名インターセックス 特性？疾患？それともセクマイ？男性と女性の両方の体の特徴を持って生まれてきてお互いの姓を中途半端に生きたかもしれないけど 両方の性別での生き方で経験したことや知れたこと そこで得た部分や損した部分など 面白くお話ししたいと思います。									● ● ●
西 篤近	新人Hソケリッサ！	ホープレスからホームレス になり2年、今はホームレ スだけどホープフル！	事業の失敗から自暴自棄な生活を送った末、ホームレスとなる。なんとか2年生きぬくも前途に希望を見いだせず、野垂れ死ぬことを選択。3週間におよぶ水だけの生活の先で、ホームレス支援雑誌「ビッグイシュー」と路上生活経験者によるダンス集団「新人Hソケリッサ！」と出会い、人生のターニングポイントを迎える。									● ●
中村 晃二	地域活動支援センター 川崎マック	生きるために酒が必要だっ た。	父親がアルコール依存症、自分も14歳で酒を覚える。違法薬物にも手を出した。更生しようと頑張った。でも、ダメだった。駄目な自分を変えようとするために酒が必要だった。妹の死、兄への嫉妬。吐血、肝硬変。精神病院入院。マックという施設との出会い。自分の人生を酒なしで生きる。マックという仕事を選んで理由。新しい生き方を今も苦しんでいる人たちへ									● ●
海老塚 智幸	脳脊髄液減少症	不定愁訴の歩き方 (脳脊髄 液減少症の場合)	不定愁訴をご存知ですか？簡単にいうと原因のわからない体調不良をいいます。体調を崩している人、周りにいませんか？長い人生においてなら誰でも体調を崩すことがあると思います。それがずっと続いて、治らず、自分の世界と部屋にこもってしまう人がいます。色々な病院をさまよってしまった私が、体験を、道をお話しようと思います。脳脊髄液減少症が診断名なので主にその話になりますがよかったですらぜひ寄ってください。									● ●

超福祉展 2017 毎日新聞×ヒューマンライブラリー 「本」役 一覧 2日目 11/8(水)

2017/11/7版

【1】13:00-13:30の回/ 【2】14:00-14:30の回/ 【3】15:00-15:30の回/ 【4】16:00-16:30の回/ 【5】17:00-17:30の回/ 【6】18:00-18:30の回/ 【7】19:00-19:30の回

名前	タイトル	あらすじ	1	2	3	4	5	6	7		
岩本 陽	画家	33歳 僕の自分史	36歳になって振り返る33歳の自分史。あの頃の僕と今の僕が再会した。ダブルマイノリティー (性同一性障害/FTM、統合失調症) として生きる岩本陽改めkodona artist yoの生きるStyle !								● ●
広瀬 眞之介	株式会社 遭遇設計 代表 ／ウツヒモニート	ウツヒモニートから働ける ようになるまで ~履歴書 スカスカからのサバイブ~	履歴書スカスカのウツヒモニートが働けるようになった事を中心に、出来るだけご質問に答えようと思います。大学4年時にうつ病→ベンチャー入社→再びうつ病患者→ひきこもり→ニート→ヒモ→主夫→起業家。しかしまた心身を壊し、事業譲渡→多重債務者→粉碎骨折。自分の特性を活かした働き方をし、うつ病の人を助けるゲーム研修「ウツ会議」を開発。								● ●
大鐘 那欧也&平野 賢太郎	ワークささはた通所員	私たちの仕事っぷりを見て ください!	所内での簡易作業と、外での清掃、共に一生懸命取り組んでいます。その仕事の様子をお話し したいと思っています。作業の実演も行ないたいと思っています。								●

若宮 大地	ワークささはた通所員	仕事は頑張る！趣味は楽しむ！	渋谷区役所福祉課内実習の様子について、映像を見てもらいながらお話ししたいと思います。また、全力で楽しんでいる趣味のダンスについても踊っている姿と併せてお話ししたいと思います。	●							
しょこたん	ウィメンズアディクショ ンサポートセンター オ' ハナ	お酒がいないアルコール 依存症者の今まで・いま・ これから	アルコール依存症は回復できる病気です。友人、家族、仕事。大切なものを次々に失っても、どうしてもやめられなかったお酒でしたが、今は飲まないことが当たり前の生活になりました。たくさんアルコール依存症者が、こうして飲まずにふつうに生きている一方、「いったん依存症になったらやめられない」という見方もまだまだ根強いと感じます。この機会にぜひお酒がいなくなったアルコール依存症者に出会ってみてください。	●	●						
岡 周		「逃げていいんだよ」とい われても、それだけじゃ逃 げられないひとへ。	そろそろ20年近く前、いわゆるブラック企業に居た。ピーク時は週4日泊り込みで睡眠時間は3時間、食べると眠くなっちゃうから寝る前に一日一食、そんな生活。日常化する物理的な暴力と心理的な圧力のなか、統合人格失調症と鬱症状を抱えつつ、なぜか「ここで僕が逃げたら仕事が廻らない」って妙な使命感だけで働き続けていた私が、ある一言をきっかけにこの生活から逃げ出すことに・・・読んでみませんか？ 奴隷労働脱出物語。			●	●			●	
染谷 カツオ	渋谷のラジオ「渋谷のサ ンデー」メインパーソナ リティー	梢（コズエ）がカツオにな るまで	1988年の初夏、染谷家の長女として生を受けた梢。思春期になり、初めて女性に恋をした。そして気が付いたのは、自分は男性だという自我。LGBTとは？セクシュアルマイノリティとは？性別という枠組みの中で「生きづらさ」を抱え葛藤しながらも、自分らしく生きていけるようになるまでのカツオの等身大のストーリー。そして様々な方と出会い広がった多様性のお話。			●	●	●			
重光 喬之	NPO法人両育わーるど/ feese	目に見えない痛みと長年付 き合い学んだこと	20代半ば、ある日突然痛みを襲われました。9か月後に脳脊髄液減少症と診断されました。治療を受ければ治ると期待してから早10年、24時間365日の絶え間ない痛みと向き合い得たことを率直にお伝えできればと思います。症例数が少ない、研究間もない等の理由から社会制度の狭間でもがく類似の状況下にある7000疾患700万人の生きるの後押しを進めています。期待し過ぎず、でも諦めないでほしいそんな気持ちで取り組んでいます。			●	●				
廣瀬 真由子	日本アルビニズムネット ワーク	アルビノで、元不登校、今 はソプラノ歌手志望。色々 あるけど、楽しく生きてま す。	アルビノ（先天性白皮症、症状は色素欠乏、弱視、日焼けしやすいなど）当事者として生まれ、4年間の不登校、通信制高校を経て、音楽大学と大学院を声楽で卒業・修了した私。今は声楽家を目指して、アルバイトをしつつ勉強を続けています。アルビノのこと、学校に通うということ、通わないということ、クラシック音楽や声楽について・・・色々お話ししましょう。			●	●	●			
ト沢 彩子	A-live connect代表	I am alive.～固定観念を超 えた生を～	性被害サバイバーとして実名と顔を出して発信し、啓蒙や支援の活動に携わってきました。そこから身近な恋愛や性の語りを発信するSEX and the LIVE!!プロジェクトやヒューマンライブラリーなど、様々な分野や価値観を掛け合わせた取り組みをしています。揺れ、楽しいこと、好きなこと。何より生きている人間だということ。そんなことを大事にし、何を経験し考えてきたかお話ししたいと思います。						●	●	●
田中 陽介	NPOカラーユニバーサル デザイン機構	パイロットになりたかった 色弱者	およそ30年前、私はパイロットや刑事、レスキュー隊員になりたいと思ったが、どれも色弱（色盲、色覚異常、色覚障害、色覚特性、少数色覚ともよばれる）が欠格条項にあたることを知った。しかしよく調べてみるとアメリカでは夜間飛行できないものの飛行機の操縦士免許が取れることを知り、大学卒業の翌年1年間トラックの運転手をして資金を貯めて渡米し、FAAプライベートパイロットライセンスを取得した。						●	●	
平川 収一郎	新人Hソケリッサ！	ホームレス、踊る、ソケ リッサ、その理由。	路上生活経験者が踊るダンスチーム「新人Hソケリッサ！」のメンバーです。わたしがなぜソケリッサに入ったのか。理由は簡単です。ちょうど超福祉展の直前まで、ソケリッサとして金沢でパフォーマンスをしたあとなので、そこでの話しも出来ればと思います。							●	●

河野 陽介	東京藝大卒 歌うGAYのおっさん	愛と正義のミラクルマイノリティ共感伝説	「いっけなーい！多様性多様性！私、河野陽介。31歳！歌うLGBTエヴァンジェリスト！おうし座のO型！どこにでも居る至って普通のGAY！でも、ある時おっさんレンタルに登録しちゃって、色んなマイノリティの人たちと出会ってもう大変！しかも超福祉展ヒューマンライブラリーへの登壇も決まっちゃって！？一体私、これからどうなっちゃうのー！？！？！」									●	●
-------	------------------	---------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---

超福祉展 2017 毎日新聞×ヒューマンライブラリー 「本」役 一覧 3日目 11/9(木) 2017/11/7版

【1】 13:00-13:30の回/ 【2】 14:00-14:30の回/ 【3】 15:00-15:30の回/ 【4】 16:00-16:30の回/ 【5】 17:00-17:30の回/ 【6】 18:00-18:30の回/ 【7】 19:00-19:30の回

名前	タイトル	あらすじ	1	2	3	4	5	6	7				
瞬	渋谷のラジオ「渋谷のサンデー 神二の愉快的仲間たち」パーソナリティ	Dreams Come True~私が私になれるまで~	トランスジェンダー・MtFとして生まれ、生きて来た私が、境遇・偏見・差別と葛藤しながら、人間として、女性として生きられるようになり、幼き頃に諦めた夢さえも叶えられるようになるまでのライフストーリー。			●	●						
Y	NPO法人ヒューマンケアクラブ ストライド メンバー	私にとっての主治医	精神の病気を発症して、今まで何人かのドクターと出会っています。私にとっての主治医とは、人生のパートナー的な大事な存在です。患者として、人として、どんなドクターと出会いどんな関わりをしてきたかを中心に、自分の病気のことについて話します。			●							
佐藤 未来	ワークささはた通所員	未来23歳のファンタジーワールド	「自閉症の俺はいつも空想をしているんだ。工作中や人が沢山いるところではたまにうるさいって怒られてしまうけれど、絵を描くと皆が褒めてくれる。戦いや絵本、アニメの空想をして、それを絵にするんだ。気が向けばあなたの似顔絵も描いてあげるよ。ちゃんと仕事もしているから、その様子も見てね。」*職員が付き添い、写真や動画などで普段の仕事の様子をお見せします。本人は絵を描くことが好きなので、当日も沢山の絵を描いてもらおうと思います。			●							
岡安 みほ	エーラス・ダンロス症候群関節過可動型	第二の人生！車椅子ダンサーとして活躍する自分に！	障害児の兄妹として生まれてきた私。病気は突如として疑われ、そして、すぐにほぼ確実と。進行していく病。希少難病。研究途中で原因不明。専門の先生は数名。絶望のそこに落ちたけど、好きな仕事(障害児支援)はいい上司に恵まれて続けられることに。しかし、それも限界に。とうとう辞める時が。塞ぎ混む日々。私がそんな時に思い出したのはある時出会った、笑顔で元気な車椅子ダンサー。そして、ダンスの先生。多くの仲間たち。そうだ！私は一人じゃない。私の第二の人生が始まった。			●	●						
金谷勇歩	社会福祉士・LGBTフリーランス	LGBTとして、福祉職として~社会の片隅で共に生きる~	わたしは最近ひとに伝えたいことがあまりない。昔はあんなに沢山あったのに。。。いろんな場所でいろんなひとにあう、そしてその糊しろになることも楽しい。ひとりのLGBTとして生き、支援が必要なひとに出会えば仕事や立場に関係なく、なんとかしようとする。山あり谷あり。それが一番楽しいのです。そんなわたしのストーリーを読みたいですと思っひとが、もしもいるなら渋谷の片隅でお待ちしています。				●	●					
齊藤 良	株式会社コンピンスアイ 代表取締役	神様からのプレゼント	先天性耳道閉鎖という片方の耳が塞がった奇形状態でこの世に生を受けました。外見上分かり易い形で生まれてきたことで、周囲の“情”を比較的敏感に感じる事ができる人生に恵まれたのかも知れませんが。神様から頂いたプレゼントではないかと思っています。これまで生きてきた中でどんな情に触れ、どのように自分自身が感じてきたのか、エピソードを挙げながらお伝えしていきます。				●	●					

望月 優	視覚障害者向けのソフトウェア・IT機器販売「アメディア」社長	人を責めない社会を目指して	今、日本社会は潔癖症。人の些細な失敗や腹黒さを誇張して責め立て、あるいは解釈の違いをあたかもものすごく悪いものとして位置付けて攻め倒そうとする風潮に溢れています。人は誰でも自己かわいさゆえの利己心や多少の腹黒さを抱えています。人を攻める行為は、自分自身の弱さを棚に上げて行われます。この自己を顧みない行き過ぎた正義主義が、現代社会におけるいじめの多さやウツの方の増大の主要因になっていると感じます。				●	●			
田中 徹二	日本点字図書館理事長	見えない人の読書環境の現在	視覚障害者が、どうやって本を読むか、みなさんは知っていますか？もちろん活字の本を読むことはできません。ボランティアが作った点字や音声の本を利用しています。人気のあるのは、週刊誌や小説です。視覚障害者が「読書」から得られる楽しみの大きさは、健常者以上です。1980年代末、点字図書の製作がコンピュータ化されました。21世紀に入ると、音声 図書の製作もコンピュータでできるようになりました。2010年に、それらのデータを蓄積したインターネット・ライブラリーが発足しました。現在では、視覚障害者はコンピュータを通し、読みたい本を自分で検索し、目当ての本をダウンロードして読むことができるようになりました。しかし、まだまだ、コンピュータ操作ができる視覚障害者が少なく、課題はたくさんあります。点字図書館の役割について、あなたにお話ししたいと思います。				●	●			
しんきち		わたしの人生	生まれてから今までの人生を語ります。ホームレス時代の事を中心に。				●	●			
重光 喬之	NPO法人両育わーるど／feese	目に見えない痛みと長年付き合い学んだこと	20代半ば、ある日突然痛みを襲われました。9か月後に脳脊髄液減少症と診断されました。治療を受ければ治ると期待してから早10年、24時間365日の絶え間ない痛みと向き合い得たことを率直にお伝えできればと思います。症例数が少ない、研究間もない等の理由から社会制度の狭間でもがく類似の状況下にある7000疾患700万人の生きるの後押しを進めています。期待し過ぎず、でも諦めないでほしいそんな気持ちで取り組んでいます。				●	●			
村上 裕	ゲイの心理カウンセラー・作家・研修講師	マイノリティを「活かす」生き方が見つかるかもしれない本	性、国籍、人種、疾病、機能、能力、性質、、、マイノリティとして生まれてきたこと、マイノリティを持って生まれてきたことは、私達が望んだことでなかったかもしれない。もしかしたら、望んで生まれてきたわけじゃない、と思うかもしれない。でも、確かな事実は「私達は誰もが望まれて生まれてきた」ということ。あなたのマイノリティを活かす生きかたが見つかるかもしれない、そんな本です。						●	●	
白井 長興	NPO法人シェイクハートプロジェクト	様々な当事者と出会い、“自分キャンパス”で表現できることを広げていく	15歳の春のこと、私はプールの怪我で突然車椅子ユーザーとなりました。高校に復学しても周囲を受け入れられず、暗闇の高校生活を過ごす中、このままではいけないと大学生になって自分にあるルールを課しました。これが私を変えたキッカケです。大学を卒業してからは一年間のニート生活ののち、知り合いの訪問介護事業所に拾ってもらい、最終的には管理者として全業務を統括して来ました。その後世界的な外資系証券会社に勤め、ダイバーシティの真髓を学ぶことができ、今は仲間とNPO法人シェイクハートプロジェクトを立ち上げました。障がい者、高齢者、シングルマザー、LGBT、外国人など様々な当事者と夢をテーマにして交流できるイベントを開催しています。様々な当事者と触れることは自分に新しい表現方法を生み出します。是非お話しを聞きに来てください。						●	●	
須藤 シンジ	NPO法人ピープルデザイン研究所 代表理事（超福祉展主催）	クライミングに水泳に海外留学！？障害児の人生の選択肢。	脳性麻痺で生まれた息子は、身体障害・知的障害を持っています。障害児の親として、幼稚園や学校、思春期、就職などのライフステージに寄り添う中で、息子には、日本の福祉の世界では「できない」と思われている、クライミングや水泳、海外留学などに挑戦させ、人生をエンジョイする姿を見てきました。その中で感じた可能性を始め、「障害児の人生の選択肢」についてお話しします。また、皆さんからの相談も大歓迎です。								●

石田 由香理	認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン(F T C J) フィリピン障害者支援事業プロジェクト・マネージャー	95%の未就学児にチャンスを一日本とフィリピンで視覚障害者の道開く	どうせ就職できないんだから、障害者が教育受けても仕方がない。学生時代、言われたことがあります。だから、より可能性が否定されがちな途上国の障害者たちの状況を、黙って見てられないのです。フィリピン国立盲学校とパートナーを組み、現地の教育環境改善に努める全盲のNPO職員が、就学率5%以下の現地の視覚障害者事情と活動内容についてお話しします。								●	●
伊藤 邦江(youyou)	you&you Project代表 イベント司会・イベントアドバイザー	潰瘍性大腸炎患者で双子の母のシングルマザーが、起業して未来を見つめる	ある日「あなたは難病患者です」と宣告された私。潰瘍性大腸炎患者として過酷な闘病生活を送り、その最中にシングルマザーに。先の見えなかった未来が、今こんなにも明るくなったのは、きっと病気になったから。そんな私が起業するまでに至った秘密とは… 幸せのビジョンを、皆さまにお届けします。								●	●
山田 吉彦	日本グラフィックデザイナー協会	色弱で弱視ですがデザイナーやっています。	先天的に色弱(色覚異常)で後天的に網膜の病気から視力も下がって、困ってます。ものすごく困っているわけじゃないですが、ちょっとだけ、困ってます。それでもなんとか、デザインの仕事でご飯を食べてきました。さてこの先どうなることやら。									●

超福祉展 2017 毎日新聞×ヒューマンライブラリー 「本」役一覧 4日目 11/10(金) 2017/11/7版

【1】 13:00-13:30の回/ 【2】 14:00-14:30の回/ 【3】 15:00-15:30の回/ 【4】 16:00-16:30の回/ 【5】 17:00-17:30の回/ 【6】 18:00-18:30の回/ 【7】 19:00-19:30の回

名前	タイトル	あらすじ	1	2	3	4	5	6	7										
小林 春彦	DO-ITJapanリーダー	漏らすは恥だが楽になる	私は18歳の脳疾患により救命手術で一命を取り留めたものの、その日から様々な後遺症を抱え生きていくことを余儀なくされました。外見は健常時代と変わらないまま・・・。そんな思春期真っ只中だった私は、対人に大いに悩みました。私の健常時代をよく知る個性豊かな5人の家族。父、母、姉、妹、そして自分自身。多感だった私が見えない障害を得て人と繋がるまでの本音・葛藤をひっそりと漏らしてみたいと思います。										●	●	●				
Y	NPO法人ヒューマンケアクラブ ストライド メンバー	私にとっての主治医	精神の病気を発症して、今まで何人かのドクターと出会っています。私にとっての主治医とは、人生のパートナー的な大事な存在です。患者として、人として、どんなドクターと出会いどんな関わりをしてきたかを中心に、自分の病気のことについて話します。										●						
岡安 みほ	エーラス・ダンロス症候群関節過可動型	第二の人生！車椅子ダンサーとして活躍する自分に！	障害児の兄妹として生まれてきた私。病気は突如として疑われ、そして、すぐにほぼ確実と。進行していく病。希少難病。研究途中で原因不明。専門の先生は数名。絶望のそこに落ちたけど、好きな仕事(障害児支援)はいい上司に恵まれて続けられることに。しかし、それも限界に。とうとう辞める時が。塞ぎ混む日々。私がそんな時に思い出したのはある時出会った、笑顔で元気な車椅子ダンサー。そして、ダンスの先生。多くの仲間たち。そうだ！私は一人じゃない。私の第二の人生が始まった。										●		●				
みき	おかし屋ぱれっと通所員	私の仕事と休日	私はクッキーやケーキを作る福祉作業所で働いています。最近マレーシアに出張して外国のお客様の前でクッキー作りを披露してきました！仕事は覚えることがたくさんあって大変ですが、新しい仕事を任されるとうれしいです。休みの日は大好きな友人とカラオケを楽しんだり、趣味のボーリングの練習をがんばっています。そんな私の日常をぜひ知ってもらいたいです。										●						

室住 二三夫	NPO法人アクセシブル・ラボ	心をもっと自由に	私は車いすユーザーですが、車いすの人はこういう人というイメージを持っていないでしょうか。それは初めて会った1人のイメージかもしれません。その1人は、たったの1/1億2700万（日本の人口）にすぎません。障害や病気の特徴で、こういう人だと決めないで、多くの人と話すことにより見える世界が変わってくると思うのですが…。障害者や健常者という固定されたイメージを壊してみませんか？	●	●				
なな	NPO法人ヒューマンケアクラブ ストライド メンバー	心配や不安のふくらみ方教えます	私は小さなことが心配や不安の種になって、果てしなくふくらんでしまいます。皆さんが何にも感じないで通り過ぎる事でも、私にとっては生きていけるかどうかの大事だったりします。こんな感覚の人もあるんだと知ってもらえたら、私もまた一歩前に進めるかな。	●					
熊篠 慶彦	映画「パーフェクト・レボリューション」企画・原案／特定非営利活動法人ノアール	昼下がりに渋谷の中心でエロい話をしましょうか？	上巻・タブーにすらなっていない日本の現状 中巻・海外は開放的・先進的、というのは幻想 下巻・ニーズを口にするのは当事者 付録・映画『パーフェクト・レボリューション』	●	●				
中村 俊介		30年間カミングアウトできなかったゲイとダイバーシティが広がるための対話の場	昨今よく聞く「ダイバーシティ」という言葉。さまざまな立場・状況の人がいつでも「自分らしく」いられるためには、どうしたらいいのでしょうか？30年間当事者でありながら、家族にも友だちにも、「本当の自分」をさらけ出すことができなかったゲイ当事者が、なぜ自分をさらけ出す勇気を持つことができたのか。カミングアウトを経て感じているダイバーシティが広がるために必要な要素とは・・・？			●	●		
シゲせんせー	公立小学校非常勤講師	自分らしく生きる～ゲイをカミングアウトしたシゲせんせーの生き方と在り方～	初めまして！小学校で働いているシゲせんせーです。ずっとゲイであることを隠して、先生の仕事をしていました。子供達と向き合う毎日の中で、自分がゲイであることを隠し続けることに違和感がありました。ゲイをカミングアウトしてからは、先生の仕事が更に楽しくなりました。授業や子供たちとかかわることも、更に楽しくなりました。カミングアウトは僕にとって、生き方と在り方を考えるきっかけになりました。その内容とは？			●			
三宅 隆	社会福祉法人 日本盲人会 連合 情報部長	同じ仲間が集える場づくり みんなで楽しく、ときには真剣に	日本には視覚障害者の自立と社会参加を目的に活動している当事者団体が多く存在しています。全国的なものから、各地域の中で活動しているものまで、さまざまなものがあります。その中では、日常生活・交通や道路などの移動・職業・災害対策など、直面する課題解決に向かって話し合ったり、スポーツや文化活動など楽しい時間を過ごしたり、地域活動に参加するなど、いろいろな活動を行っています。ここでは、その活動例をご紹介します。			●	●		
初瀬 勇輔	障害者の就労支援を行う「ユニバーサルスタイル」代表取締役／日本視覚障害者柔道連盟理事	行動することで自分を変え 世界を変える～視覚障害が教えてくれたこと～	視覚障害者柔道を知っていますか？組んでスタートするためお互いが常に一本を狙い、残り1秒まで気が抜けないとても魅力的でスリリングな競技です。何より「組む」というほんのわずかな工夫で健常者と障害者の垣根を越えて一緒に競技することのできるユニバーサルなスポーツです。私が途中で視覚障害となり、どう視覚障害者柔道と出会い支えられてきたかを通じて柔道の魅力、2020年東京パラリンピックをきっかけに目指すべき未来についてお話します。			●	●		
加藤 健人	ブラインドサッカー男子 日本代表	2020年東京パラリンピックで金メダルを獲る！	僕は子どもの頃からサッカーをやってきて、高校でもサッカー強豪校に所属していました。高校生のときに目の病気が発覚し、次第に視力を失っていきました。「もう何もできないんじゃないか」と途方に暮れていた頃、両親の勧めによりブラインドサッカーと出会い、新しい夢ができました。僕の人生のモットーは、「はじめなければ、はじまらない」ということです。色々なことがありましたが、障がいやブラインドサッカーを通じて学んだことを、お伝えしたいと思います。					●	

畑野 とまと	トランスジェンダーカフェ (トランスジェンダー活動家)	トランスジェンダーの意味を知っていますか？	20年間「トランスジェンダーって何？」というお話をしてきた「畑野とまと」が話す、トランスジェンダーとLGBTといったお話。LGBとTがなぜ一緒に並んでいるのか？「トランスジェンダーは性同一性障害とか言う病気なんじゃないのか？」「いや、性同一性障害じゃないトランスジェンダーは変態じゃないのか？」LGBTブームに巻き起こる誤解をざっくり解説しちゃいます。									●	●	●
GBSブロッター	ギラン・バレー症候群 患者の会	全身麻痺になっても生きる喜びと、難病患者や障害者として生きる苦しみ	3年前に食中毒から難病と言われるギラン・バレー症候群になり、人工呼吸器で生き延びて全身麻痺の寝たきり生活が3か月続いた後、奇跡的に回復しました。まるで浦島太郎が玉手箱を開けて、いきなり寝たきり老人になった後、また若返っていくような不思議な経験をしています。要介護者や障害者として経験している理不尽なできごとを、まだ手が不自由で3級障害者の私の実体験からお話しします。										●	●
西澤 恵	認知症介護者のおしゃべり会 主宰	認知症介護 家族に何ができる？	「あれもこれも認知症の症状だったのだ。」と気づいた時には、介護の為に自分の時間が割かれています。日々の生活や仕事に支障が出ると共に、当事者は適切な認知症介護が受けられない状態が続いていきます。そうなった時、認知症について知識のない家族は、どんな介護ができるのか？何をすればいいのか？又、家族の認知症を受け入れられるのか？自らの介護経験と多くの介護家族の声を、これから認知症介護をするかもしれないあなたにお伝えしたい。										●	●
踊るラッキーBOY 想真		宇宙人の僕は地球怪獣と仲良しになりたい	発達障害(自閉症、聴覚過敏、触覚過敏、識字障害、解離etc)、無性別、ホームレス、ひきこもりからダンサーへ、地球を愛する宇宙人150億歳、海外(パレスチナ・ベトナム・カンボジアなど)での活動、地球ハッピーとは、ラッキーBOYになる方法、、、などなどetc。。。その日に偶然開いたページをお話します。											●

超福祉展 2017 毎日新聞×ヒューマンライブラリー 「本」役一覧 5日目 11/11(土) 2017/11/7版
 【1】 13:00-13:30の回/ 【2】 14:00-14:30の回/ 【3】 15:00-15:30の回/ 【4】 16:00-16:30の回/ 【5】 17:00-17:30の回/ 【6】 18:00-18:30の回/ 【7】 19:00-19:30の回

名前	タイトル	あらすじ	1	2	3	4	5	6	7
山下 幸治	新人Hソケリッサ!	ホームレスを経験し、ようやく自分は“自分”になれた。	●	●					
桜沢 良仁	HIV陽性者スピーカー・ライター	科学は僕らに生きると言い、誰かが僕らに死ねと言う	●	●					●
シゲせんせー	公立小学校非常勤講師	自分らしく生きる～ゲイをカミングアウトしたシゲせんせーの生き方と在り方～	●	●					

カピバラさん	/	「きょうだい」という微妙な立ち位置の私	私の弟は自閉症。姉弟喧嘩はほとんどしたことないけど、一緒に過ごすと言っても普通の兄弟姉妹とはちょっと、いやだいが違う。私たちを知る人には「同じ家で、ひとりっ子が2人育ったみたい」と言われる。だからきっと私は、障害のある人の支援に携わっている人や、障害のある人の親とは、また違った見方で「障害のある人たち」をみているんじゃないか、と思う。新しい「障害のある人」の見方を、ぜひ一緒に見つけてみませんか？							
--------	---	---------------------	---	--	--	--	--	--	--	--

超福祉展 2017 毎日新聞×ヒューマンライブラリー 「本」役一覧 6日目 11/12(日) 2017/11/7版

【1】 13:00-13:30の回/ 【2】 14:00-14:30の回/ 【3】 15:00-15:30の回/ 【4】 16:00-16:30の回/ 【5】 17:00-17:30の回/ 【6】 18:00-18:30の回/ 【7】 19:00-19:30の回

名前		タイトル	あらすじ	1	2	3	4	5	6	7
高橋 麻貴	生活支援員、精神保健福祉士	自分にとっての「回復」ってなんだろう？	子供時代に難病（膠原病）を発症し、大人になってからは精神疾患を抱える中で感じた様々な生きづらさ～病気を受容することの難しさ、働けない苦労や生活保護受給のエピソード、内なるスティグマ等～について語ります。弱さを語ることは勇気のいることですが、自分にとっては「回復」に必要なプロセスでした。「回復」ってなんだろう？・・・読者の皆様との対話を通して考えて行きたいです。	●	●					
黒田 真史	/	ピュアヒストリー	18歳の夏に脳挫傷をとまなう大きな事故をした僕。これまでの22年の事は、この時間では語りつくせませんが、事故に遭ったから出会えた人たちの話などもありますので、ぜひお聞きください。	●	●					
瀬戸 崇史	就労継続支援B型事業所支援員/精神保健福祉士	精神疾患があったら、人生終了なの？	精神疾患があるからって、そのことだけで生き方を限定されたくない、可能性をつぶされたくない、人生あきらめたくない。統合失調症を発病してからも、自分らしく生きたい、やりたいことをやりたいと思い続け、もがき、あがいてきた今までの道程をへて、今、ほんの少し自分のことを好きになれるようになるに至るまでのライフストーリーを語ります。	●	●					
緑川 沙智	大学生	東日本大震災から十人十色の生き方を見つめて	東日本大震災が起きたとき、当時、私は高校一年生でした。地震や津波、そして、原発事故によって故郷の福島が、人が変容していく。現実を受け止められず、震災から目を背けていた私に生きる力をくださった大切な出会いと、復興の途上で露わになった生きにくさがありました。生きる力と生きにくさの狭間からみえた命の平等について、福祉の視点から一緒に考えていきませんか？	●	●					
山口 通	全盲の元高校教員	障害から「障生(しょうせい)」へ	高校教員生活の半ばで、難病により、中途失明。そのとき、私には世間がどう写ったのか、そして、そこからどう生きたのか。また、「障害」、「障がい」の言葉について、少し考えてみました。			●				
		41歳、中途失明のとき	登り坂、下り坂、そして「まさか」がありました。難病で中途失明したときの気持ちは… 職場復帰への道 絶望のなか、悶々とした毎日は続きます。どうすれば、どう生きればいいのか、まったく見えてきません。その時私は、どうしたのか。				●			
ヒロユキ	NPO法人ヒューマンケアクラブ ストライドメンバー	障がいと生涯付き合っていくために	自分のマイナス思考や余計な想念を、私はいかにして取り払ったのか。そして、必要なことだけ考え、実行するメリットとは。			●				

イクちゃん		網膜色素変性症という難病の進行とDVに悩みながら二人の子供を大学生にした体験談	20歳でひよんなことから網膜色素変性症という難病であると診断を受ける。当時はネットもなく医学書で調べて愕然とする。そこには原因もわからず治療法もなくやがて失明するとの記載。情報のない闇の中で過ごした日々とそれを言っははいけないととられていた頃の自分、自分で発信できないが故の傷つき。そして結婚後のDVのなかでの子育て。人形になろうと決めた日のこと。そして今大学生になりそれぞれの世界を歩いてる子供への思いを語ります。						●
-------	--	---	--	--	--	--	--	--	---

超福祉展 2017 毎日新聞×ヒューマンライブラリー 「本」 役 一覧 7日目 11/13(月) [最終日]

2017/11/7版

【1】 13:00-13:30の回/ 【2】 14:00-14:30の回/ 【3】 15:00-15:30の回

名前		タイトル	あらすじ	1	2	3	
渡部 郁子	子連れアナウンサー	育児期の女性のバリアについて考える	育児期の女性は期間限定のハンディキャッパーです。普通にできないことがたくさんあります。待機児童問題の解決策を模索しながら子連れで活動してきた5年間で感じた、育児期の女性のバリアについてお伝えします。そして、育児期にどのような支援、理解が必要なのか、みなさんと一緒に考えます。	●	●		
案納 真里江		パンセクシュアルってなに？	パンセクシュアル。自身のセクシュアルを確信したのは人生22年目にして、初めてその言葉を聞いてから。パンセクシュアルって何？ LGBTとは？ 様々な疑問と一緒に、自身のセクシュアルに辿り着く迄のストーリーを、お話出来たらと思います。	●	●	●	
岡安 みほ	エーラス・ダンロス症候群関節過可動型	第二の人生！ 車椅子ダンサーとして活躍する自分に！	障害児の兄妹として生まれてきた私。病気は突如として疑われ、そして、すぐにほぼ確実と。進行していく病。希少難病。研究途中で原因不明。専門の先生は数名。絶望のそこに落ちたけど、好きな仕事(障害児支援)はいい上司に恵まれて続けられることに。しかし、それも限界に。とうとう辞める時が。塞ぎ込む日々。私がそんな時に思い出したのはある時出会った、笑顔で元気な車椅子ダンサー。そして、ダンスの先生。多くの仲間たち。そうだ！ 私は一人じゃない。私の第二の人生が始まった。	●	●	●	
イクちゃん		網膜色素変性症という難病の進行とDVに悩みながら二人の子供を大学生にした体験談	20歳でひよんなことから網膜色素変性症という難病であると診断を受ける。当時はネットもなく医学書で調べて愕然とする。そこには原因もわからず治療法もなくやがて失明するとの記載。情報のない闇の中で過ごした日々とそれを言っははいけないととられていた頃の自分、自分で発信できないが故の傷つき。そして結婚後のDVのなかでの子育て。人形になろうと決めた日のこと。そして今大学生になりそれぞれの世界を歩いてる子供への思いを語ります。	●	●	●	
浅倉 陸		女性から男性へ戸籍変更までの道のり LGBTを理解することで広がる世界。	女性として生まれ今日までの過程、男性になった今までのこととお話しします。社会に出て感じた差別や偏見。基本的にはみなさんのご意見を取り入れ、みなさんと一緒に価値のある30分間、思い出になる世界の一つだけの本(時間)を作りたいと考えております。			●	